

# 概説

RED DATA BOOK

## 海藻類(藻類)

海藻とは「海に生育する藻類の仲間」ですが、海水中に生育し、光合成によって独立栄養を営む有胚植物を除いた葉状の植物である。肉眼的な大きさが大型の底生海産藻類であり、顕微鏡で見えるような生物は除外している。

これまでの海藻の分類は1800年代から提唱されてきた分類群「緑藻」「褐藻」「紅藻」によって、定義されてきたが、今日では「藻類」の大分類群の中に海藻が位置づけられるようになった。例えば「緑藻」は藻類の分類中、緑藻植物門、「褐藻」は黄藻植物門、「紅藻」は紅藻植物門というようにである。

ここでは、話が難しくなるので、従来の「海藻類」の定義で進めたいと思う。日本の沿岸域には約1400種類の海藻類が生存しているが、海藻の地理的分布は沿岸を流れる海流の影響を強く受ける。寒流の流れる北海道ではコンブなど亜寒帯性海藻が、黒潮暖流の影響が強い南西諸島ではカサノリ、ガラガラ類などのいわゆる亜熱帯性海藻がよく生育している。これらの中に位置する本州沿岸では暖流と寒流の両方の影響を受けてカジメやヒジキなどの温帯性海藻が生育している。本州の日本海側は太平洋側の海藻相に似ているが、干満の差が少なく、冬場の潮位が年間を通して一番低いこと等、潮間帯の海藻植生は貧弱なのが特徴である。

島根県沿岸域の海藻植生は、海水の透明度が高い事もあって光合成活動に適しており、かなりの水深まで海藻類が豊富に繁茂している。特に、岩礁部の垂直に落ちている岩面にはアラメ

やカジメが海藻の林を形成し、サザエ類の恰好の生息場として機能している。海底には2~4mの長さのホンダワラ類がよく繁茂するとともに、冬から春にかけてはワカメがいたるところで生育している。

島根県には、全国でも数カ所しか生育が確認されていない貴重な海藻が認められ、海藻類の中では唯一、国の天然記念物に生育地が指定されているクロキヅタがある。隠岐諸島の島前に位置する西ノ島の別府湾の近くに黒木御所跡（後醍醐天皇が隠岐島に流刑された地、順徳天皇の佐渡島での行在所と同名）があり、この御所の前の海で珍しい海藻が採集され、その後この地名をとってクロキヅタと命名された。大正11年3月3日、国の天然記念物にその生育地が指定されている。このクロキヅタの学名は、*Caulerpa scalpelliformis* var. *scalpelliformis* といって学名中に、var.と記載されており、紅海に生育している変種として扱われている。クロキヅタは隠岐諸島の中でも非常に分布が限られており、広範な分布調査を行う必要があると思われるが、現時点で生育している周辺の海域に、クロキヅタの繁殖が拡大する傾向はないように思える。従って、現在生育している地域の保護が必要であると考え、海藻類では唯一、レッドデータブックに絶滅危惧Ⅱ類として記載した。種解説の学名は原則として新崎（2002）によっている。

(秋吉英雄)

### 海藻類掲載種一覧

計 1 種

#### 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- ・ クロキヅタ

1 種

#### 【記号説明】

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (1種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- : 新規掲載種 (0種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (0種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (0種)